//

いわて マナビィ マガジン

No.138　　2017. 6. 23

//

山々の緑も、雨に打たれて色濃くなりました。読者の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、今回は、センター情報に加え、宮古教育事務所の社会教育・生涯学習関係事業に関する情報をお伝えします。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

センター情報

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

今回は、今年度の新規事業「子育ち・親育ちサポートサロン」の実施状況についてです。

このサロンは、①幼稚園（保育園）年中以上～小学生以下のお子さんをお持ちの保護者、②生後概ね 10 か月以上～３歳未満の乳幼児をお持ちの保護者を主な対象とし、６教育事務所中３か所において①の皆様を、他の３か所において②の皆様を対象に実施しています。そして、この事業は県子育てサポーターの方々の協力を得て託児を行っています。

６/10（土）、花巻市まなび学園で盛岡ハートフルカウンセリング セラフィ 代表 佐藤真理子さん（心理カウンセラー有資格者）を講師として招聘し、①の方を対象に開催しました。（参加者 22 人）

講話・演習のテーマは「見つめてみよう自分のキモチ。聴いてみよう子どものココロ」であり、はじめに「心を和らげる呼吸法」を参加者全員で体験しました。
目を閉じてゆっくりと深呼吸をしながら、ここ数日の自分の行動についてスクリーンをイメージし、その行動を映し出してみるものでした。
その後、受付の際に配布したおり紙に自分で映し出した場面を記入、また、その場面を見て客観的な観点から労いの言葉を考えて書き込むというものでした。
※書いたおり紙は半分に折り、講師の先生に提出しました。（強制ではなく任意）

講話の内容は次のとおりでした。
〇子どもの発達と養育者の関わりについて
〇カウンセリングの現場について
〇子どもの願いと性格の形成について
〇親の願いと伝え方について　等

特にも「親の願いと伝え方について」は、伝え方の方法として５つあげておられました。
①「人のものをとっちゃだめでしょ」（命令）
②「そんな子はお母さんの子じゃないわよ」（脅迫）
③「あなたはいつも逃げてばかりだね」（批判・説教）
④「こうしてみたらいいんじゃない？」（提案）
⑤「どうしてこんなことをしたの？」（尋問）

親子は相談できる間柄でなければならず、双方向のコミュニケーションが成り立つよう大切なポイントとして次のことを話されていました。
①機会をつくる（場所・時間・雰囲気）
②最後まで聞く（ジャッジしない・うなずき・あいづち・表情）
③感情を受容する（子どもは気持ちをわかってくれたと思う）
④一緒に考える（あなたはどう思う、お母さんはこう思うよと話す）
⑤子どもを信じる（失敗しても立ち直る力、成長する力につながる）

その後、小グループに分かれて、具体的場面「子育て“あるある”」をもとに交流をしました。参加者の皆様はいきいきとした表情で熱心に交流していました。講師の先生が参加者から回収していたおり紙に書かれていたことを読み上げ、サロンは終了しました。

参加者の満足度は８割を超え、「実践しやすそうなのでやってみよう！と思えました」「今まで自分が子供と接してきた方法が間違いではなかったと再認識できたし、今後よりよい関係を築いていく方法も知ることができ、ためになった」という感想が寄せられました。

サロン中の託児では、県子育てサポーターの皆様が上手に子どもと接していただき、参加者が集中してサロンに臨める環境を作ってくださいました。ご協力いただきました県子育てサポーターの皆様に感謝しております。

この研修を通して、現在、子育て中の方々は不安を抱きながら必死に子育てしているのだということを再認識しました。改めて、当センターとして、今後も子育て中の皆様に参考となる情報の発信や研修を実施してまいりたいと考えています。
また、県子育てサポーターの方々にこのサロンで活躍していただきましたが、各市町村における子育て関係事業でこれまでにも増して活躍する場面がでてくることを期待するものです。

今後の当サロン開催要項等については下記ホームページをご覧ください。
（まだ掲載されていない要項等については順次行います）
http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/29youkou/29youkou.html

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

教育事務所情報

（今回は宮古教育事務所からの情報です！）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

いつもありがとうございます。お世話になっております。宮古教育事務所の社会教育担当 鈴木と申します。

今回機会をいただきましたので、宮古教育事務所管内の社会教育関連情報をお届けいたします。
どうぞよろしくお願いいたします。

当事務所では、今年度の社会教育に係る重点を「連携・充実」としておりますが、常日頃から事務所事業運営等において宮古市・山田町・岩泉町・田野畑村　４市町村の皆様に支えていただいております（感謝の毎日です）。
また、当管内では年に５回の管内社会教育主事等会議等を通じて、相互理解を深めながら、相互支援ができる関係性を築いていただいております。

それでは、はじめに７・８月の当事務所の２事業（社会教育関連）について概要を紹介します。

【７月 26 日（水）宮古地区市町村図書館職員等研修会】
一関市立図書館、「文学の蔵（世嬉の一酒蔵）」の視察研修を実施します。

当管内では、宮古市において全小中学校に学校図書館支援員を配置しており、また管内４市町村で多くの方が読書ボランティアとして熱心に活動してくださっています。

【８月４日（金）中・高等学校図書館担当者研修会】
宮古市崎山公民館（崎山貝塚縄文の森ミュージアム、崎山支所複合施設）において実施します。
講師として、岩手県立図書館 サービス部長　似内千鶴子氏、岩手県立陸中海岸青少年の家所長　菊池啓子氏、もりげき演劇アカデミー講師・演出家　似内　仁氏をお迎えし、理論と実践を学びます。

続きまして、先日取材をさせていただきました「山田町朗読ボランティア」の活動の様子を紹介いたします。

「山田町朗読ボランティア」は、昭和 62 年に３名のメンバーでスタートした団体です。
現在まで 30 年にわたり活動していらっしゃり、町の広報を音声訳した録音テープを希望者に届けたり、小学校や町の図書館で読み聞かせ活動をなさっています。

取材当日（6/5）は、広報の録音日でしたが活動場所をお邪魔させていただいた第一声が「いらっしゃい　よくきてくださいました」と、明るく温かな雰囲気で迎えてくださいました。

その後、団体代表の佐々木啓子氏にお話を伺いましたが、（団体の皆様は、朗読のリハーサルや記事原稿のチェックなどを綿密になさっていました。）
団体創設の理念や 震災時の様子、現在にいたる皆様の奮闘記など興味深く、学び深い、楽しい お話を沢山聞かせていただきました。

録音が始まると・・、雰囲気は一転。
皆様真剣な表情でマイクに向う姿を拝見しました。

そして、何より皆様の朗読が素晴らしかったです。
マイクの先にいらっしゃる方に思いを馳せながらの朗読、相手を思う気持が伝わって参りました。

あっという間に３時間が経過し、会場を後にいたしましたがとても心地

良い気持ち一杯で帰路につきました。

以上、
事務所事業や活動団体の紹介をさせていただきました。
これからも、４市町村の皆様と力を合わせながら、社会教育の推進を図りたいと思っております。
どうぞよろしくお願いいたします。

そして、他管内の皆様
機会がありましたら、どうぞ当管内にお出でください。
お待ちしております。

▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼

このメールマガジンは、県内小・中学校、義務教育学校、社会教育関係者及び生涯学習・ 社会教育に関心を持たれている登録者の皆様に無料で配信しています。 ご意見・ご感想、登録・登録解除は下記アドレスにご連絡ください。⇒ E-mail；takashi-kuji@pref.iwate.jp

メルマガのバックナンバーをセンターＨＰ「まなびネットいわて」で閲覧できます。⇒ http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/
左下の「発行物・刊行物」＞「いわてマナビィマガジン」をクリック

▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼

発　行：岩手県立生涯学習推進センター （花巻市北湯口 2-82-13）
編　集：久　慈　　孝